

昭和橋におけるお絵かき大会を実施して

明和パソコンクラブ

通常では入ることのできない工事現場に、明和町、行田県土整備事務所、館林土木事務所、小川工業(株)などの関係機関のご協力により、ヘルメットを着用して入り、開通前の橋梁の床版にお絵かきができたことは、明和町民にとってはたいへん貴重な経験であるものと思います。特に、子供たちには思い出に残るものと思います。歩道部に描いた絵は、その上にコンクリートと舗装を打設してしまうため、表面から見えなくなりますが、昭和橋がなくなるまでのおよそ100年間残ります。また、2012年には川田工業(株)のご協力により、昭和橋の架設の際に、明和西小学校の児童や明和町民を対象とした見学会を行い、橋梁に関する最先端技術を体感することができ、好評を得ました。

これらの昭和橋の上で「私たちの未来の街」を描く事業や、架設状況の見学により、まちづくりには社会資本整備が重要であることが、少し理解できたのではないかと思います。明和町では、昭和橋が完成し道路が整備されると渋滞がなくなるとともに、川俣駅周辺が再開発されるなど、ますます便利になることが予想されます。そこで、明和パソコンクラブでは、19作品の「私たちの未来の街」を参考に、「人が住みたくなる、魅力あるまちづくりはどうあるべきか。降りてみたくなる川俣駅はどうあるべきか。」などについても検討していきたいと考えています。

最後に、今回の事業は明和町企画財政課の方々による、関係機関との調整などの多大なご協力により実現できたものです。心より厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。